

JSOI50-0028

インプラント補綴における可撤性ブリッジと固定性ブリッジのポンティック部位が粘膜に及ぼす影響

○奥寺 元, 鈴木 富士雄, 三壁 信洋, 山崎 良和, 青木 健, 秋知 明, 奥寺 俊允

一般社団法人東京形成歯科研究会

Effects of the pontic sites of removable and fixed bridges on the mucous membranes in implant prosthesis

○OKUDERA H, SUZUKI F, MIKABE N, YAMAZAKI Y, AOKI K, AKICHI A, OKUDERA T

Tokyo Plastic Dental Society

I 目的： インプラントブリッジの上部構造には固定性および可撤性がある。天然歯におけるブリッジと同様にインプラントブリッジにおいてもポンティック部位がその清掃性に影響を及ぼし、粘膜炎症が惹起されていることの報告がある。演者らは可撤性のエレクトロフォーミングの製作方法と可撤性ブリッジ補綴物の特徴である清掃性について発表してきた。今回は固定性および可撤性のポンティック形態の違いがインプラント周囲の粘膜に与える影響について比較検討を行った。

II 材料および方法： 対象はエレクトロフォーミングによって製作した可撤性ブリッジ (以下可撤性) および従来法により製作した固定性ブリッジ (以下固定性) を装着した患者、それぞれ13名および14名である。ポンティック基底面粘膜の影響の評価として、細菌増殖数をコロニーカウンター (パナソニック社) にて測定、またプラークインデックス9分割測定 (以下PI)、粘膜炎症発赤度合検査 (発赤度合0~3) を用いた。また患者自身の評価としてVisual Analogue Scale (以下VAS) による違和感を評価した。統計処理はt検定を行った。

III 結果： 細菌増殖数はエレクトロフォーミングによる可撤性で固定性よりも少なく有意となった ($p < 0.01$)。PI9分割測定においても可撤性において有意にプラークが少なかった ($p < 0.01$)。粘膜炎症発赤度合検査 (発赤度合0~3) では固定性で炎症を認めた ($p < 0.01$)。粘膜部位を圧接したVASによる違和感では固定性が高かった ($p < 0.05$)。

IV 考察および結論： エレクトロフォーミングによる可撤性ブリッジは患者着脱が容易で清掃性のケアと細菌増殖が少なく良好な方法と考えられる。さらに患者自身の異和感が固定性よりも低いことからインプラント周囲炎発生の予防に有用であり、より長期予後が期待できる方法である可能性が示唆された。さらに経年劣化の際にも修理が容易となり意義深く、今後経過観察を行う予定である。(倫理審査委員会17000114 承認 承認番号19202)